



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和3年11月13日(土) 第22回 のしろまち灯り 編

11月13日に開催される「のしろまち灯り」に先駆け、11月8日～12日の間、16時～18時に能代河川国道事務所ではLED、灯籠の点灯を行いました。当事務所では「のしろまち灯り」を盛り上げるべく平成28年度から点灯を行っています。

今年はより多くの方に見えるよう、国道7号に面した2階フロアの窓と1階エントランス、花壇にて灯りを灯しました。

2階窓には約650個のLED電飾、1階エントランスには男べらぼうと女べらぼうの灯籠を並べました。

窓のLEDには県立大学木材高度加工研究所の足立幸司准教授製作で、灯りからもっと木を感じれるよう秋田杉と檜を薄くスライスした傘を取り付けました。

笠を光が透過し、秋田杉は木目が鮮やかに、檜は木目が目立たず淡い光になるなど木の特徴が現れ異なった灯りが楽しめました。

この演出に多くの職員がスマホで撮影したり、「感動した」「癒やされる」など感想を述べていました。

事務所前の花壇では、昨年と同様に秋田杉の間伐材を使ったスギ灯りと角材にLEDを埋め込んだスギ灯りを点灯しました。約20mの長さがあるため存在感があります。

天気に恵まれず、スギ灯りのロウソクが灯ったのが初日と最終日だったのが残念です。

13日(土)の本イベントは、のしろまち灯り STREETとして上町～能代図書館・中央公民館で“木都ティピー灯り”や“紙箱灯り”など秋田杉を使った10種類の灯りを各店舗で灯すなど様々な灯りが楽しめました。

初の企画であった「影絵ウォークラリー」は灯籠に隠れている動物を見つけるもので、子どもから大人まで楽しく練り歩きながら探していました。降っていた雨もイベント時には止み、逆に灯りが温かく、幻想的な雰囲気でした。

クラフトビール「いろは」とだまこ鍋も美味しかった一

文：佐々木 和嗣



今年は能代河川国道事務所内外が様々な灯りで彩られました。



屋内用の新作は杉(左)と檜(右)の傘を電球にかぶせるものです。見た目も香りも樹種の違いが楽しめます。



街道カフェ「夢工房 咲く咲く」にはこの日も多くの来場者がありました。